

事業報告書

事業名	令和2年度 介護福祉士リーダー研修事業
事業の実施状況	<p>1 オンラインを活用したリーダー研修会（講師養成研修）</p> <p>日本介護福祉士会の介護福祉士の生涯研修体系に定める軸となる研修を全国で推進するため、各地で当該研修の講師を養成するリーダー研修会を開催した。</p> <p>ただし、令和2年度は、コロナ禍の影響により、予定を大幅に変更し、前期講師養成特別講座のみ、試行的にオンラインにより開催した（後期研修会は開催していない）。</p> <p>(1) 開催概要</p> <p>① プログラム</p> <p>ア オンラインによる映像コンテンツ視聴 令和3年1月25日（月曜日）～1月31日（日曜日）</p> <p>イ 映像コンテンツを踏まえた事後課題 2月19日（金）締切</p> <p>ウ オンラインによるライブ講義</p> <p>その1 令和3年3月25日（木曜日）19時～20時半 その2 令和3年3月26日（金曜日）19時～20時半</p> <p>※ 受講希望者多数のため2回に分けて実施</p> <p>② 研修講師</p> <p>ア 白井孝子氏（東京福祉専門学校副学校長） イ 石本淳也氏（日本介護福祉士会前会長）</p> <p>③ 参加対象者</p> <p>以下のア、イを満たし、ウ若しくはエを満たす者</p> <p>ア 介護福祉士資格取得後、現場経験（介護職、ケアマネジャー、相談業務、管理職、教育職）5年以上</p> <p>イ 支部から推薦を受けた者</p> <p>ウ 現在支部において研修の講師をしている者</p> <p>エ 今後支部において研修の講師を予定している者</p> <p>(2) 受講状況</p> <p>① 受講者数 45名</p> <p>② 修了者数 44名</p>

2 オンラインを活用した介護福祉士基本研修

介護福祉士には、介護現場のリーダーとして、その役割を担うことが期待されているが、その際に最も重要となるのが、介護過程の展開に係る理解であるが、コロナ禍の影響により、当該内容を担保するための介護福祉士基本研修を全国の都道府県介護福祉士会で推進できない環境にある。

そこで、当該研修を、全国の都道府県介護福祉士会において、オンラインで開催するためのコンテンツ等を開発することを目的として、オンラインを活用した介護福祉士基本研修をモデル的に開催した。

(1) 研修概要

① 開催概要

ア 映像コンテンツ視聴・確認テスト（7教科分）

令和3年3月10日（水曜日）～3月17日（水曜日）

イ オンラインによるライブ講義①

令和3年3月20日（土曜日）10時～16時10分

ウ 通信課題による学習

令和3年3月24日（水曜日）提出締切

エ オンラインによるライブ講義②

令和3年3月28日（日曜日）10時～16時20分

② 講師

木場圭一（宮崎県介護福祉士会会長）

③ 参加対象者

介護福祉士資格取得後、概ね2年未満の者

(2) 受講状況

① 受講者数 7名

② 修了者数 7名

(3) 開発した動画コンテンツ

① 求められる介護福祉士像（講師；及川ゆりこ会長）

② 介護福祉士の倫理（講師；藤野裕子常任理事）

③ 生活支援としての介護の視点（講師；宮崎則男副会長）

④ 自立支援の考え方（講師；今村文典副会長）

⑤ 介護福祉士に求められる知識と技術（講師；石本淳也前会長）

⑥ ICFの視点（講師；永嶋昌樹常任理事）

⑦ 多職種連携・記録・コミュニケーション（講師；安達眞理子常任理事）

3 介護職のリーダーのためのWEB研修会

介護職のリーダーである介護福祉士が、介護福祉の専門職が担うべき役割を確認するとともに、介護の魅力ややりがいを再確認すること等を目的として、介護の専門性を取り上げた映画の上映会を開催した。

(1) 開催概要

① 上映コンテンツ

ア 映画；ケアニン2～こころに咲く花～

イ 日本介護福祉士会及川会長と映画プロデューサー（山国氏）との対談動画

② 上映期間

令和3年3月12日（金曜日）から18日（木曜日）まで

③ 上映後の対応

日本介護福祉士会ホームページ上に特設ページを置き、本上映会の成果をアンケート結果とともに掲載した

(2) 参加状況

参加者 1,710名（アンケート回答者 510名）

4 黒澤貞夫先生のインタビュー

介護福祉士が、介護福祉の専門性を理解し、誇りをもって介護現場において活躍いただくこと、また、介護の専門性に多職種の皆様に理解をいただくことを目的として、黒澤貞夫氏（日本生活支援学会会長）へのインタビューを行った。

(1) 概要

昨年度実施した黒澤貞夫氏へのインタビューでは、「介護福祉士の専門性と介護の仕事が持つ魅力ややりがい」について哲学的にアプローチいただいた。続く令和2年度は、このテーマをさらに深めていただき、介護福祉と介護福祉士の専門性について、理論編、そして実践編として語っていただいた。

(2) インタビュー結果の活用

理論編では4テーマについて、実践編では6テーマについて語っていただき、うち理論編は専門誌「介護福祉士」に掲載し、実践編の6テーマについては、日本介護福祉士会のホームページに特設ページを開設・掲載した。その際、動画コンテンツも視聴できるようにした。

5 教育部会

昨年度に引き続き、日本介護福祉学会と日本介護福祉士会の連携の在り方等について議論を行った。

介護福祉士の専門性を高めていくためには、介護現場での実践の取組を研究成果として積み重ねられることが必要であるが、そのためには、介護の実践者と介護福祉の研究者との連携が重要であることが合意され、今後の介護福祉のリーダーを輩出していくことを目的とし、両組織が、介護福祉研究に係る相互連携及び交流等の必要性が確認され、覚書を交わす方向性を確認した。

(1) 参加メンバー

- ・ 太田貞司氏（日本介護福祉学会会長）
- ・ 本名 靖氏（日本介護福祉学会副会長）
- ・ 及川ゆりこ（日本介護福祉士会会長）
- ・ 永嶋昌樹（日本介護福祉士会常任理事）

(2) 覚書に盛り込む事項

- ・ 介護福祉研究に係る相互連携等について、定期的に検討を行うこと
- ・ 相互の研究大会、公開講座、研究会、研修会等に参加することの検討を行うこと
- ・ 研究大会、公開講座、研究会、研修会等を共同企画・開催することの検討を行うこと
- ・ その他、趣旨にかなう取組等（研究倫理審査、査読の共同実施を含む）の検討を行うこと

6 キャリアパス検討プロジェクト

介護現場で、多様な人材によるケア実践や、多様な人材を育成する役割を担うことができる介護職チームのリーダーを育成することを目的とした「介護職チームケア実践力向上推進事業（厚生労働省補助事業）」を、全国の都道府県介護福祉士会で実施することを後押しすることを目的として、取組を進める都道府県介護福祉士会をサポートするPJTを設置した。

(1) 参加メンバー

- ・ 及川ゆりこ（日本介護福祉士会会長）
- ・ 藤野裕子（日本介護福祉士会常任理事）
- ・ 石本淳也（日本介護福祉士会前会長）
- ・ 金山峰之氏（東京都介護福祉士会前副会長）
- ・ 熊木佐知男氏（埼玉県介護福祉士会副会長）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鈴木 乃氏（東京都介護福祉士会所属） ・ 町田晴美氏（埼玉県介護福祉士会会長） ・ 甲田孝子氏（長野県介護福祉士会所属・認定介護福祉士） ・ 岡本匡弘氏（京都府介護福祉士会事務局長） ・ 大田京子氏（三重県介護福祉士会会長） <p>(2) 概要</p> <p>当該事業を進めるための「介護福祉士会方式」のモデルを整理・お示しし、各都道府県介護福祉士会で当該モデルを活用した取組を推進することで、介護職チームのリーダーを育成するには、専門性を備えた介護福祉士であることが望ましいとする根拠を得ることを目指し、随所で、各都道府県介護福祉士会の担当者等と意見交換を行いつつ、取組方法等について助言等を行うなどした。</p> <p>さらに、1年間の取組成果を踏まえ、全国の都道府県介護福祉士会に対し、令和3年度の厚生労働省の「介護現場における多様な働き方導入モデル事業」への参画要請を行った。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
事業の成果	<p>1 オンラインを活用したリーダー研修会（講師養成研修）</p> <p>全国の介護福祉士の質の向上等を図るために欠かせない日本介護福祉士会の介護福祉士の生涯研修体系に定める軸となる研修を全国で推進するためには、各地で当該研修の講師を養成することが欠かせない。</p> <p>令和2年度は、コロナ禍の影響により、これまで通りの開催はできなかったが、試行的にオンラインによる研修会を開催した。</p> <p>この取組により、オンラインによる開催の可能性も確認でき、また、オンラインで開催するにあたっての留意点等も確認できたことから、本年度より、より効率的・効果的な講師養成を行っていけることが確認された。</p> <p>2 オンラインを活用した介護福祉士基本研修</p> <p>介護福祉士が、介護現場のリーダーとしての役割を担うことが期待されており、その際に最も重要となる「介護過程の展開」に係る理解を担保するための介護福祉士基本研修は、極めて重要な研修であると考えている。</p> <p>令和2年度は、コロナ禍の影響で、全国の都道府県介護福祉士会が当該研修の実施を見合わせるといった事態に陥ったが、この</p>

度の取組により、オンラインによる当該研修の実施可能性が確認され、合わせて、学習に必要な映像コンテンツを開発することができ、当該映像コンテンツを活用した研修実施方法を整理することができた。

これにより、より多くの介護現場のリーダーを、より効率的・効果的に要請する道筋をつけることができた。

3 介護職のリーダーのためのWEB研修会

介護の魅力は、人に与えられるものではなく、介護現場で奮闘している一人ひとりがその魅力を感じ、その価値を発信していかない限り伝わるものではない。

日々の業務に忙殺される介護職のリーダーである介護福祉士も少なくないため、介護福祉の専門職が担うべき役割を確認するとともに、介護の魅力ややりがいを再確認することは欠かせない。

アンケート結果を見ても、このWEB研修会を通し、介護の魅力ややりがい、介護福祉士が担うべき役割を改めて確認することができ、引き続き、介護現場で頑張ろうとする気持ちを持っていただくことができたことも確認できた。

4 黒澤貞夫先生のインタビュー

介護福祉士が、介護福祉の専門性を理解し、誇りをもって介護現場において活躍いただくこと、また、介護の専門性に多職種の皆様に理解をいただくことを目的として、黒澤貞夫氏（日本生活支援学会会長）へのインタビューを行った。

黒澤先生には、数時間に及ぶインタビューにご対応いただき、今年度だけで、10テーマ分のお話を伺うことができ、それぞれ映像コンテンツ化し、ホームページだけでなく、専門誌やニュースにも掲載し、介護福祉の専門性とは何かについて発信いただいた。

介護の業界をけん引してくださっている黒澤先生の思いは、必ずや介護福祉士の皆様に届くものと確信している。

5 教育部会

介護福祉士の専門性を高めていくためには、介護現場での実践の取組を研究成果として積み重ねられることが必要であり、そのためには、介護の実践者と介護福祉の研究者との連携が重要であり、このことは、介護福祉のリーダーの輩出に極めて重要な要素

である。

これまでの意見交換等を踏まえ、日本介護福祉学会側でも整理が進み、日本介護福祉士会と日本介護福祉学会とが、介護福祉研究に係る相互連携及び交流等について覚書を交わす方向性を確認することができたことは、リーダー育成に大きな一歩になったものと考えている。

6 キャリアパス検討プロジェクト

厚生労働省補助事業である「介護職チームケア実践力向上推進事業」を受託実施する都道府県介護福祉士会での取組を通し、介護職チームのリーダーを育成するには、専門性を備えた介護福祉士であることが望ましいとする根拠を得ることを目指し、種々取組を推進した。

その結果として、事例数が限られており、引き続きの取組が欠かせないものの、一定の学習経験を積んだ介護福祉士が介護職チームを育てる妥当性が確認でき、令和3年度以降の取組に繋げることができた。

以上